

# けっして他人事ではないのです！

あなたの町は、震災ガレキを焼く大阪市此花区舞洲工場から何キロ？



# 11月試験焼却、来年2月本焼却。

大阪市では、此花区・舞洲工場で震災ガレキを11月に試験焼却し、来年2月から本格的に焼却を始めます。

## ほんとに危険な震災ガレキ

- ・6月以降、震災ガレキを焼いた東京都の清掃工場から水銀やアスベストが検出され焼却が中止。(木下世田谷区議談)
- ・細野環境大臣が、ガレキにはヒ素やクロムなどの猛毒が含まれていると発言。(7月5日テレビ朝日モーニングバード)
- ・「阪神」がれき処理、中皮腫で公務災害申請  
阪神大震災でがれき処理を担当した兵庫県明石市環境部の男性職員(48)が中皮腫を発症した問題で、明石市は17日、「がれきに含まれたアスベスト(石綿)が原因」として、男性が地方公務員災害補償基金兵庫県支部に公務災害を申請したと発表した。認定されれば、同震災では初の例となる。(2012年8月18日読売新聞)



## ガレキはもうない？

当初予想されていたガレキの総量はどんどん下方修正され、岩手・宮城両県は新たな処理の要請はしないと発表。大阪の請け負うガレキも18万トンから3.6万トンに大幅に減少し、これは県内でもじゅうぶんに処理できる量。



## ガレキがほしい被災県

ガレキを使って、いのちを守る森の防潮堤にするという計画(宮脇昭先生の案)が、宮城県議会では超党派全員一致で可決。防潮堤をつくるには今あるガレキを全部使っても足りないという。また、ガレキを全量燃やさず選別せず埋立て、古墳・記念公園にするという案(岡山博先生の案)も出ている。

## とってもおかしい処理費用の内訳！

阪神淡路大震災時のガレキの処理費用は1トンあたり2万2千円。それに対して大阪府では岩手のガレキの処理費用は1トンあたり6万円としています。その内訳をみると、運搬費用と焼却・埋立費用はほぼ同額の2万円。運搬費用が全体の3分の1を占めています。それに引き換え安全性を確保するための測定費用はたったの千円。これではいくら「安全です、大丈夫です」と言っても信用できません。(参考：此花区説明会での7月4日議事録より)もし現地処理すれば、輸送費もかからず処理費用が国から被災地に落ち、安全対策をしっかりとした専用施設の建設などによっても雇用が生まれます。被災地の経済も動き出し、復興につながります。

福島第一原子力発電所から200キロ以上離れた静岡県のお茶や、岩手県の稲わらから放射性セシウムが検出されたことを思い出してください。

焼却場の煙突から排出された放射性物質は、微粒子となって風にのり数10キロ、数100キロまで飛散することはこれらのことからみても明らかです。またホットスポットといわれる場所は、山のふもとなどその地形によってもさまざまに距離とは関係なく存在します。雨が降ればより広範囲に被害は拡大するのです。

あなたの町がそのホットスポットになるかもしれません。

原発事故は一度の事故で大量の放射性物質を撒き散らしましたが、舞洲工場での焼却が始まればその量は違えど、これから2年間毎日、その煙突から放射性物質を含む有害物質が放出されます。そして季節によって風向きを変え大阪のみならず近隣府県を汚染地帯へと変えてしまうことでしょう。放射性物質が付いたものを燃やすことは、全世界どこを見ても前例のないことです。その結果がわからないからこそ恐ろしく、けっして安全性は担保されたものではないのです。

あらゆる公害問題を見ても、健康被害が出たところで補償などされません。燃やしてしまってからでは遅いのです。舞洲工場は普通の焼却場で、放射性物質を燃やすようにはできていないのです。

